

フランスガキ種苗生産

川村 要・佐藤 敦

今年度も前年度と同様、フランスガキの種苗生産を行ない、昭和52年9月9日現在約153,000個の稚貝を採苗することが出来たので、その結果を報告する。

材料および方法

(1) 母 貝

当センターの人工採苗で得られた2年貝で、平内町土屋で養殖していたものを用いた。

(2) 母貝の成熟促進

前年度と同様、容量100ℓのFRP水槽に母貝105個を収容し、4月16日から20℃の温海水をかけ流し生殖巣の成熟促進を図った。

(3) 幼 生 放 出

幼生の放出が近づいた頃、FRPの水槽内を1日2回、止水の状態を観察した。幼生の放出が発見された際は、直ちに放出中の母貝を水槽からとりあげ開殻により幼生の放出を行なわせた。

(4) 幼 生 の 飼 育

幼生の飼育は前年度と同様、容量0.5トンのフルコンタイ水槽6面を用いた。幼生の飼育数は1水槽当たり41万個～50万個で軽い通気を行なった。餌料は*Monochrysis lutheri*（以下MCと略称）と*Green Water*（以下GWと略称）を給餌した。また飼育水は2～3日毎に全換水または1/2換水を行なった。

(5) 採 苗

前年度と同様、採苗器は、カキ殻（2%～5%程度に砕いたもの）を使用した。採苗方法は、カキ殻を1分目パールネットに入れて、3枚を1連としたものを水槽内に垂下し、幼生が付着し終わった時水槽から取り上げ、そのままの状態でごセンター前の養殖筏に垂下した。採苗器投入時の幼生の殻長は317μ～340μであった。

結 果

(1) 母貝の成熟状況と幼生放出

5月7日より計7回に亘り成熟状況を観察した。その結果は第1表のとおりである。

第1表 母貝の成熟状況

前処理開始		開殻測定		測定個数	平均殻長	W	G	B	備考
(月)	(日)	(月)	(日)	(個)	(cm)	(個)	(個)	(個)	
4	16	5	7	8	6.8	0	0	0	水槽中に幼生観察 幼生飼育№1、2 幼生飼育№3、4 幼生飼育№5、6
〃	〃	5	20	6	6.7	0	0	0	
〃	〃	5	23	5	7.0	0	0	0	
〃	〃	5	28	3	7.3	0	0	1	
〃	〃	6	1	3	6.7	0	0	0	
〃	〃	6	3	1	6.6	0	0	1	
〃	〃	6	6	4	7.3	0	0	1	

(註) W : White sick
G : Grey sick
B : Black sick

(2) 幼生の飼育

餌料はMC、300万～400万Cells/cc、GW、3,000万～4,000万Cells/ccに増殖したものを給餌した。幼生の飼育状況は第2表に示した。

第2表 幼生の飼育状況

水槽 №	飼育 開始 月日	飼育開始時		付着時		歩 留	付着 までの 日数	付着 開始 月日	飼育 日数	沖出し 月日	採苗器 投入数 (パール ネット)	餌料	
		水槽 当りの 幼生数	幼殻長 (10ヶ 平均)	水槽 当りの 幼生数	幼殻長 (10ヶ 平均)							MC	GW
		(万個)	(μ)	(万個)	(μ)							(%)	(日)
1	5.28	50	171	40	330	80	15	6.12	27	6.24	18	2	—
2	5.28	50	171	26	338	52	14	6.11	27	6.24	18	2	—
3	6.3	48	166	32	335	67	14	6.17	21	6.24	18	1	0.5
4	6.3	48	166	38	340	79	14	6.17	21	6.24	18	1	0.5
5	6.6	41	171	35	334	85	13	6.19	33	7.9	16	1.5	—
6	6.6	41	171	30	317	73	14	6.20	33	7.9	12	2.5	—

(3) 付着稚貝

養殖筏に沖出しした付着稚貝はその後順調に成育し9月7日～9月9日の3日間に亘り分散作業を行ない、大(殻長3cm以上)106,500個、小(殻長3cm以下)46,500個 計153,000個の稚貝を採取した。

採取した稚貝は、青森市原別、野内、平内町土屋、野辺地町の各漁業研究会に配布し垂下養殖試験に供した。